東奥日報社提供

東　奥　日　報
2020年（令和2年）5月26日（火曜日）（20）

八工大が八戸市民病院に貸与した医療用空気清浄機（写真左下の機材。浅川准教授提供）

空気清浄機 感染対策に

八工大 八戸市民病院に貸与

新型コロナウイルス感染症患者治療の基幹病院となっている八戸市民病院を支援しようと、八戸工業大学は5月上旬から、研究用の陰陽圧化可能医療用空気清浄機1台とサーモカメラ1台を同病院に貸し出している。空気清浄機はウイルスが外部へ漏れないように室内を陰圧化することができるため、同病院は一般病棟の1室に設置し、重症のコロナ感染症患者を受け入れる専用病室とする方針。

空気清浄機は数年前、浅川拓克・機械工学科准教授の研究室に所属する学生が研究の際に使用したもの。感染症の空気感染対策が必要な医療現場でも活用できる高性能な機材で、低コスト・短時間で既存の部屋やテント内を陰圧室に変えることができる。サーモカメラは物の表面温度測定や人の体温測定に利用できるという。

浅川准教授は、同病院に常駐し出動先で手術が行えるドクターカー「V3」を共同開発した経緯から、同病院の今明秀院長と日頃から情報交換を行っており、3月上旬から大学当局と調整しながら医療現場支援の準備を進めていた。25日までの取材に、「患者だけでなく医療従事者もウイルスと闘っている。空気清浄機を活用して専用病室を増やすことで、医療従事者の感染防止につながり、ひいては市民の安全安心につながる」と話した。（千葉真由美）